



生協さえき病院通信



2014年11月号 発行責任 広報委員会
広島市佐伯区八幡東 3 丁目11-29
TEL082-926-4511 FAX082-926-4522

【医療福祉生協連 中堅看護師研修会報告】

研修 2 日目、東日本大震災被災地視察がありました。1 年前にも同じ研修で看護師が視察に行き報告をしています。何も変わっていない状況を目の当たりにしました。

ガイド役の方が放射線測定器をもたれ、聞きなれないアラーム音が鳴り続ける中、郡山から浜通り(海沿い)の広野町へ最初に向かいました。



黒い袋は全て除染で生じた「除染ゴミ」視野に入る平地に無数に積み上げられています。昨年より高さも範囲も増えています。

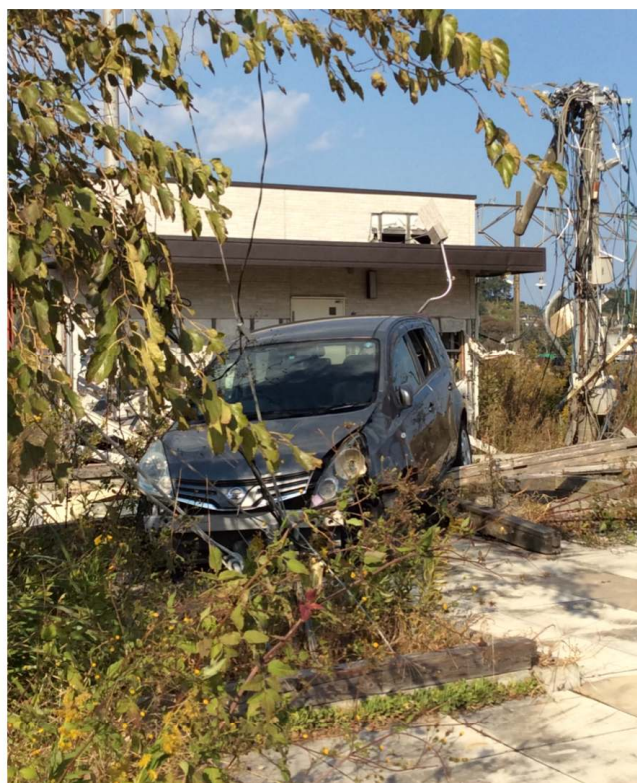




富岡駅に着きました。建物は崩壊したまま放射線量の問題で、手つかずの状態です。雑草も生え放題、荒れ果てた荒野と化していました。

放射線量は、2.2 マイクロシーベルト 15 分程度しか滞在は許されませんでした





取り残されたままの車、「人」の文字は中に人がいたための目印だったそう。
最初の1文字以外は、すべて落書きだそうです。
写真におさめられたのは、ほんの一部です。



あちこちに太陽光発電による放射線測定器が設置されていました。

NHKでは天気予報と同じく毎朝、線量が報じられているそうです。

まだ数万人の人が避難生活を送っている。

震災関連死が震災での死者数を超えたと同じでした。中には自殺した方も数十人含まれています。

美しく青い海は見えますが、だれも住んでいない町、遺品か何かを探している人たちと、除染作業をしている人を見かけただけでした。

二度と戻れない土地の静けさに鳥肌が立ちました

かつてあったコミュニティーが無くなると町は死んでしまうのだと実感しました。

皆に伝える必要を感じました。

全国に広がる医療福祉生協のネットワークを生かして支援や協力を行っていきたいと思います。

(4 階病棟 城戸)